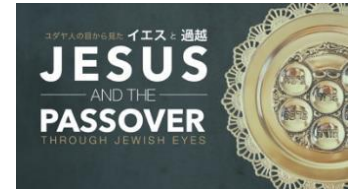




Amir Tsarfati

[イエスと過ぎ越し]



ユダヤ人の目から見た、イエスと過ぎ越し

今夜お話しするのは、宗教以外のこと全てです。これは、宗教の時間ではありません。ユダヤ人について、でもありません。異邦人とはどう違うか、とかでもありません。神の御言葉についてです。3500年前にさかのぼることです。ユダヤ人によって受け継がれた事についてです。それは単に、彼らには異なる様々な指示が与えられ、彼らの手に託されただけで、こんにちまで、それらを受け継ぐためでした。しかしながら、二日後に、世界中のユダヤ人たちは、食卓を囲んで、過ぎ越しのセダーを祝いますが、たいてい、彼らは、この意味を完全には理解していません。興味深いのは、主の使いが、エジプトの長子を打つために来たとき、当時、彼は、ユダヤ人の家を飛ばすようには指示されていませんでした。指示は、実に明確でした。

23 主がエジプトを打つために行き巡られ、かもいと二本の門柱にある血をご覧になれば、主はその戸口を過ぎ越され、滅ぼす者があなたがたの家に入って、打つことがないようにされる。

(出エジプト記 12:23)

指示は、二本の門柱に血が塗られてある家は全て、滅ぼす者が入れない、ということでした。そこで、私はよく考えるのですが、もし、エジプト人の家庭が、モーセが人々に伝えた指示を小耳にはさんで、彼らの門柱にも、その血を塗っていたら、どうなったのだろうか？ 皆さん、ニュースです。その家の長子も殺されませんでした！ 皆さん、私たちは所属することで救われるのではありません。重要なのは、あなたの体の中を流れる血ではありません。あなたが、あなたの心の門柱に塗った血が重要なのです。さて、イザヤ書 46 章から始めたいと思います。私は、ほとんどのメッセージをこの聖句から始めます。

9 遠い大昔の事を思い出せ。わたしが神である。ほかにはいない。わたしのような神はいない。

10 わたしは、終わりの事を初めから告げ、まだなされていない事を昔から告げ、

(イザヤ書 46:9~10a)

皆さんがご存知かどうかは分かりませんが、過ぎ越しは、3500年前に神ご自身によって設けられた、暦の上の最初の出来事です。ですから、「大昔の事を思い出せ」。過ぎ越しは、昔の事を思い出させるためのものです。

それから、神は言われました。

「わたしは、終わりの事を初めから告げる。」

そこで、3500年前に、モーセがイスラエルの民にある事を行うよう指示しました。

ある決まりに従って、ある段階を踏んで。実は彼は、神のご計画を明かしていたのです。将来、実行されることを。そこで今夜は、皆さんの前で、過ぎ越しのセダーを実演してみたいと思います。



[過ぎ越しのセダーを実演するアミール]

事実、ヘブル語の「セダー」は「秩序」という意味で、神の御言葉にも、神のやり方にも秩序があります。そこにカオス（混沌）もなければ、混乱もありません。神は、秩序を創られた方です。ですから、信者である私たちが、混乱の中にいるなら、そこに神はおられません。

神の御霊は、明瞭と秩序の霊であって、混乱と欺きの霊ではありません。このセダーの中で、私たちは二つの事を行ないます。まず

第一に、もちろん食事をします。私たちは食べることが大好きですから。実際、聞いたところによれば、“カルバリーチャペル”も、元々は“カロリーチャペル”だったそうですね？（笑）しかしながら、私たちはただ食事をするだけでなく、エジプトからはるばる約束の地まで出て来た出エジプトの話を、子どもたちに伝えます。出エジプト記 12:7~8 に書かれている食事には、異なる三つの物が登場します。

7 その血を取り、羊を食べる家々の二本の門柱と、かもいにそれをつける。

8 その夜、その肉を食べる。すなわち、それを火に焼いて、種を入れないうパンと苦菜を添えて食べなければならない。

（出エジプト記 12:7~8）

当時、神殿がまだ存在し、まだ犠牲がささげられていた頃、私たちは過ぎ越しの子羊を食べました。

事実、出エジプト記 12 章を読めば、子羊を丸ごと、残さず全部食べなければならなかったのです。肉を全部。それは、水で煮てもいけない、生でもいけない。火で焼かなければなりません。ということで、過ぎ越しの子羊を食べます。それから苦菜（にがな）は、自分たちがどこからきたかを思い出すためです。そして、マツツア——種を入れないうパンです。では私たちは、子どもたちに何を伝えているのでしょうか？ 出エジプト記 13 章 8 節によれば、私たちは、子どもたちに話を伝えるのです。

8 その日、あなたは息子に説明して、『これは、私がエジプトから出て来たとき、主が私にしてくださったことのためなのだ』と言いなさい。

（出エジプト記 13:8）

私たちが、エジプトを出た時の見事な話、私たちが属さない束縛の地から、私たちが属している約束の地への脱出の話です。私たちの誰一人として、闇や混乱、欺きの地には属していません。私たちのすべてが、いのちと真理の地に属しています。約束の地。

16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。

（ヨハネ 3:16 a）

神は、全世界に約束されたのです。ただ、残念ながら、欺きがあまりにも広く蔓延って、皆が信じるわけではありません。しかし、信じた者は滅びず、永遠のいのちを持ちます。ということで、お話するのは、私たちがエジプトからどのように出て来たかを伝える、申命記 26 章 58 節の話です。それから、私たちはまた、賛美も歌います。詩篇 113 篇から、118 篇、この 6 つの詩を通常、過ぎ越しのセダの終わりに歌います。これは「ハレル」賛美の歌として知られています。これがとても美しく、イエスも十字架にかかる数時間前に、この部分を飛ばさず、二階の広間を出る前、そしてゲツセマネの園に行く道中に、この賛美を歌われました。過ぎしは、ハレルを夜に口ずさむ、唯一の祭りです。通常、ユダヤ人は安息日や祭りの時の日中、シナゴグの中で神を賛美し、歌います。唯一、私たちがハレル詩篇を夜に歌うのは、過ぎしの夜だけ。

ユダヤ人が食卓を囲む時、ある本を使います。これは、聖書の中の聖句と、伝統的なラビの言葉を集めたもので、「ハガダー」（書記注：ヘブル語表記は חֲגַדְתֵּנוּ ハッガダー・シェル・ペサハ）で知られています。アメリカ人の方たちは「ハッガダー」と言うでしょう。この本は、私たちが使っているものですが、これは、一人の作者によって書かれたものではなく、先ほども言いましたように、数々の世代によって創られたものです。ハガダーはヘブル語で「伝える」という意味で、この中で、物語が伝えられています。これは食べられませんから、食事ではありません。これは、伝えるためです。



[ハガダーの説明をするアミール]



[過ぎしの食事のプレート]

過ぎしセダの食卓では、どこでも面白いお皿があります。出エジプトの話の中から、特定のものや、特定の出来事を象徴する、いくつかの異なるものが盛られたお皿です。

①まず、スネの骨そのまま。これは当然、過ぎしの子羊を思い出すためです。私たちは、もう、過ぎしの子羊は食べません。覚えていますか？ 神殿は壊され、もう、犠牲をささげていないのです。ですから、私たちに残された、過ぎしの子羊を思い出すもので、今はスネの骨なのです。これは過ぎしの夜、それぞれのユダヤ人の家でささげられた、過ぎしの子羊そのものを象徴しています。非常に興味深いのは、ユダヤ人たちは、神殿がまだあった頃、何世代にもわたって何の罪もない、一歳の雄の傷のない子羊をささげて来たのです。第一コリント 5 章 7 節の後半から、キリストが、私たちの過ぎしの小羊であることが分かります。

7 … 私たちの過ぎの小羊キリストが、すでにほふられたからです。

(第一コリント 5:7)

聖書は、他の誰でもなく、キリストご自身が 真の過ぎしの小羊である、と明確に告げています。キリストは、

ただの 神の子羊として ではなく、過ぎ越しの小羊だと。パウロがそのように書いたのです。ところで、パウロは“レビ学院”を卒業しています。パウロは、教会を迫害する者でした。彼は、当時の超パリサイ派でした。それが、目から うろこが落ちて、開かれ、覆いが取られた時、彼は、真の過ぎ越しの小羊が誰であるかを、明確に見ることが出来たのです。そして、言いました。

「キリスト、イエシュア、イエスが確かに私たちの 過ぎ越しの小羊 だったのだ。」

出エジプト記 12 章 5 節と、第一ペテロ 1 章 19 節によれば、私たちは 傷のない小羊を取るように指示されています。

5 あなたがたの羊は傷のない一歳の雄でなければならない。それを子羊かやぎのうちから取らなければならない。

(出エジプト記 12:5)

19 傷もなく汚れもない小羊のようなキリストの、尊い血によったのです。

(第一ペテロ 1:19)

「傷のない」とは、何も問題がないということです。そして骨は、一本たりとも折れていてはなりません。覚えていますか？ イエスの骨は、死を早めるために折られるところだったのです。しかし、彼の体の骨は、一本たりとも折られませんでした。そうして彼は、過ぎ越しの小羊の条件を全て満たしたのです。ですからイエスは、ただの ほふられた過ぎ越しの子羊ではなく、これらの条件を成就されたのです。出エジプト記 12 章 46 節と、ヨハネ 19 章 33 節によれば、「その骨を折ってはならない」とあります。

46 これは一つの家で食べなければならない。あなたはその肉を家の外に持ち出してはならない。またその骨を折ってはならない。

(出エジプト記 12:46)

33 しかし、イエスのところに来ると、イエスがすでに死んでおられるのを認めたので、そのすねを折らなかった。

(ヨハネ 19:33)

ですからイエスは、ただの過ぎ越しの子羊ではなく、完璧な過ぎ越しの小羊でした。

② それから苦菜。ヘブル語で「マロール」と呼び、苦味です。この苦菜は、お皿の上では、二つの異なる形で登場していて、パセリと 西洋ワサビです。私はあまり 西洋ワサビ が好きではありませんが、これは私たちがエジプトで奴隷であったことを表しています。これらを食べると、涙ぐみます。皆さん、スプーンにいっぱい西洋ワサビを食べたことがありますか？ 嫌でも涙が出て来ますね。これはもちろん、私たちの父祖が、エジプトで残酷なパロの元で奴隷であった時の苦味です。そして、私たちにとっては、マタイ 26 章 37 ~38 節のイエスを思い出しますね。

37 それから、ペテロとゼベダイの子ふたりとをいっしょに連れて行かれたが、イエスは悲しみもだえ始められた。

38 そのとき、イエスは彼らに言われた。「わたしは悲しみのあまり死ぬほどです。ここを離れないで、私といっしょに目をさまして いなさい。」

(マタイ 26:37~38)

イエスは立ち退くことも出来ました。そこから去ることも出来たのです。

「これは、わたしのする事ではない。」

と言うことも出来ました。しかし、イエスはまさにこのために来られたのです。多くの人が「ユダヤ人がイエスを殺したんだ」と言いますが、皆さんに言うておきます。イエスが、ご自身をささげられたのです。イエスは言われました。

18 …わたしが自分から いのちを捨てるのです。わたしには、(中略) それをもう一度 得る権威があります。

(ヨハネ 10:18)

これは、彼が神ご自身であられることの美しい象徴です。神は、いのちを与え、いのちを取り去られます。そして彼は、これらの言葉を言うことによって、彼の神性を示されたのです。世のために死ぬことは、喜ばしい事ではありません。彼は、恥と罪をその身に負われました。しかし、彼の前に置かれていたのは、喜びだったのです。過去の事、世の罪は、何も喜び祝うようなものではありません。ちょっと、自分たちのしてしまったことを考えるだけでも涙が出て来ます。中には、立ち上がれないと感じる人もいるでしょう。しかし、

5 … 朝明けには喜びの叫びがある。

(詩篇 30:5b)

イエスはそこで苦しまれ、苦菜はそれも象徴しています。

③ マツア。ちょっと言うておきますと、毎年 過越しの時、私には「世界中で教えるから」という、イスラエルを出るための素晴らしい口実があるのです。これを避けるためです(笑)。



[マツア]

毎日毎日 8 日間、続けてマツアを食べたことがありますか？もう大変ですよ！それがマツアです。それからマツアは、そこまで硬くなくても良いということを理解しておいてください。この“パン”が避けなければならなかったものは、唯一、パン種(イースト)です。ですから小麦粉と水と塩で生地を作って、火に入ると、まだふわふわの美味しいもので、“種なし”の基準を満たすことが出来るのです。しかしこれが、何日もの話になると、こう

なります。それから興味深いのは、マツアにはご覧の通り、うち傷があり、それから刺された跡があります。膨らんだり、破裂するのを避けるために、これらの小さな穴があるのです。そしてこれが、打たれたイエシュア、イエス・キリストのからだの、見事な絵なのです。

5 しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。彼への懲らしめが 私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。

(イザヤ書 53:5)

この全体に刺し通された跡は、ゼカリヤ書 12 章を思い出しますね。

10 … 彼らは、自分たちが突き刺した者、わたしを仰ぎ見、ひとり子を失って嘆くように、… 激しく泣く。
(ゼカリヤ書 12:10)

それからルカ 22 章 19 節。

19 それから、パンを取り、感謝をささげてから、裂いて、弟子たちに与えて言われた。「これは、あなたがたのために与える、わたしのからだです。わたしを覚えてこれを行いなさい。」
(ルカ 22:19)

私は、ただ 愉しみのために マッツァ を食べることはできません。私はこれを見るたびに、打たれ、手足を刺し通されたイエスご自身を、いつも思い出すのです。

④ それから、とても面白いものがあるのです。茶色のローストした卵です。といっても、イースターではありませんよ？ ユダヤ人は、イースターエッグとか、そういったことはしませんから。どうして ウサギと卵なのか、よく分かりませんが。ともかく。エッグハントとか？ 私たちはそれもしませんよ。ローストした卵は、エルサレムの神殿と ハギーガー（祝賀）で知られる、特別なささげ物を思い出すためです。毎年、祭りの時にはそのささげ物がささげられていました。ただ、何故ローストするのか？ それは、神殿が焼き崩されたため、神殿が崩壊されたからなのです。ユダヤ人が、神殿の崩壊を覚えるのは、過ぎ越しの時だけではありません。ユダヤ人の花婿は、ユダヤ人の女の子と結婚する時に、グラスを割るのです。グラスを割るのも、神殿の崩壊を覚えてのことです。そして、グラスを割りながら、言うのです。

5 エルサレムよ。もしも、私がお前を忘れたら、私の右手がその巧みさを忘れるように。

(詩篇 137:5)

ですから神殿を覚え、エルサレムを覚えることは、ユダヤ人一人一人の DNA 中にあるのです。「エルサレムが重要だ」と言いながら、エルサレムに向かって祈る事もなければ、彼らの経典の中に名前すらも書かれていない、どこかの宗教とは大違いです。これがローストした卵です。私たちは、この卵は食べません。ただ、私たちが神殿とその崩壊を思い出すためにここにあるのです。私が いつも思い出すのは、マタイ 26 章 61 節の、誰かが言った、イエスの言葉です。

61 … 『わたしは神の神殿をこわして、それを三日のうちに建て直せる』… (マタイ 26:61)

もちろんイエスは、ご自分の事を言っておられました。それから、エペソ 2 章 19~22 節

19 こういうわけで、あなたがたはもはや他国人でも寄留者でもなく、今は聖徒たちと同じ国民であり、神の家族なのです。

20 あなたがたは使徒と預言者という土台の上に建てられており、キリスト・イエスご自身がその礎石です。

21 この方にあつて、組み合わされた建物の全体が成長し、主にある聖なる宮となるのであり、

22 このキリストにあつて、あなたがたもともに建てられ、御霊によって神の御住まいとなるのです。

(エペソ 2:19-22)

私たちは皆、神の宮です。神の御霊が、私たちの中に住まわれています。神殿の崩壊について、好きなだけ思い出せば良いですが、私は自分の結婚式で、グラスは割りませんでした。その理由は、一つに、私は頑固者ですから。皆がしていることはしたくない。私の人生で最高に幸せな日に、とっくの昔に神が去られた神殿の物理的な崩壊を覚えたりはしない。エゼキエル書 8 章で、神の御霊はすでに神殿を去っています。あの神殿は、とっくの昔になくなっていました。神が神殿に戻って来られたのは唯一、イエスが来られた時だけです。毎回、人として来られた神が、神殿に入られた時、第二神殿の時代、それが唯一、神殿に神がおられた時でした。ですから、私たちは思い出さなければなりません。イエスがおられた時、あの神殿にはもはや神の御霊がなかったのです。ですから、私たちは、神殿の崩壊を嘆くのではなく、私たちが聖霊の宮になったことを喜ぶべきです。

- ⑤ さて、次はパセリ。パセリは、それだけで出されることはありません。これは、塩水の入った器が添えられて出てきます。塩水です。そして私たちは何をするかと言えば、伝統ではパセリを食べる時、これからお見せしますが、私たちは、塩水の中にパセリを浸します。これはいくつかの事を思い出すためです。
- A) 一つはヒソプ。ヒソプを子羊の血に浸して、それで二本の門柱に振りかけました。
- B) それから、モーセが杖で紅海の水に触れると、紅海の塩水が分かれた、あの大きな出来事を思い出させます。
- C) しかしながら、塩水について忘れてはならないのが、ルカ 19 章 41 節です。先週の日曜日、これについて話したばかりですね。勝利の入城。イエスがエルサレムをご覧になったときのこと。聖書にはこうあります。

41 エルサレムに近くなったころ、都を見られたイエスは、その都のために泣いて、

(ルカ 19:41)

イエスは、初めに世を救うために来られました。世を裁くためではありません。しかし彼は、彼の訪れを逃した都をご覧になり、人々がどれほど盲目になっているか、そして、この国を物凄い苦しみで襲う事、その都が完全に崩壊することが、彼には見えたのです。そこで塩水は、私たち、神の民にとっては、イエスご自身の涙を思い起こさせます。

- ⑥ 他には、リンゴと ナツメヤシの実（デーツ）と シナモンを混ぜたものがあります。見た目は、土のようです。これは当時エジプトで、ヘブル人の奴隷たちが建物を建てるのに使っていた、土のレンガを象徴し、「ハロセット」と呼ばれます。ご覧のように、これは土のレンガで、土を彷彿させるものですが、実際はとても甘くて、美味しいです。ハロセット、レンガの石と言えば、ヨハネ 14 章 2~3 節。
- 2 わたしの父の家には、住まいがたくさんあります。もしなかったら、あなたがたに言っておいたでしょう。あなたがたのために、わたしは場所を備えに行くのです。
- 3 わたしが行って、あなたがたに場所を備えたら、また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。わたしのいる所に、あなたがたをもおらせるためです。

(ヨハネ 14:2~3)

イエスは今、巨大建築現場の、総合建設業者です。彼は、私たち全員のために、豪邸を用意されているのです。私たちは、ここにいる間は、家のローンや賃貸、あれこれと考えますが、あちらでは私たち全員のために、豪邸が建てられているのです。それから彼は言われました。

3 わたしが行って、あなたがたに場所を備えたら、また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。

(ヨハネ 14:3a)

彼は雲の中に来て、私たちが彼のもとに迎えてくださいます。つまり私たちが、他の世から取り分け、彼のもとに迎えて、それから私たちがその豪邸に連れて行ってくださるのです。そこの大通りは、純金ですよ！そこでは、私たちは栄光のからだで、何でも好きなものが食べられるのです！（笑）アーメンですか？アーメン！それからこう言われました。

3 … わたしのいる所に、あなたがたをもおらせるためです。

(ヨハネ 14:3b)

これは“もしも”ではなく、約束です。これは、事実です。

「わたしのいる所に、あなたがたをもおらせる。」

ですから、彼を信じる私たちには、保証があるのです。ただ救われただけでなく、この悪の世を去って、私たちは見事な豪邸に入るのです。想像できますか？豪邸ですよ？ただの家じゃない！

そこで、第一ペテロ 2 章 4~5 節です。

4 主のもとに来なさい。主は、人には捨てられたが、神の目には、選ばれた、尊い、生ける石です。

5 あなたがたも生ける石として、霊の家に築き上げられなさい。そして、聖なる祭司として、イエス・キリストを通して、神に喜ばれる霊のいけにえをささげなさい。

(第一ペテロ 2:4~5)

皆さんは大祭司ですよ？自分の地位に、物凄く不安な異邦人が、とてもたくさんいます。

「あなたはユダヤ人ですが、私は異邦人ですよ。」

だから？良いですか？皆さんは近道したんですよ!?(笑) 神の民でなかったところから、今や祭司です！一体どういうことですか？

⑦ それから、ワインが 4 杯。



[ワイン]

と言っても、私は 4 杯のワインは飲みませんよ。1 杯目で、救急車がやって来ます！（笑）ただ、皆さんにお伝えしたいのは、4 杯のワインは、神がエジプトからユダヤ人を 4 度 救い出したことを象徴しています。

出エジプト記 6 章 6~7 節

6 それゆえ、イスラエル人に言え。わたしは主である。わたしはあなたがたを エジプトの苦役の下から連れ出し、労役から救い出す。伸ばした腕と大いなる さばきとによって あなたがたを贖う。

7 わたしはあなたがたを取ってわたしの民とし、わたしはあなたがたの神となる。…

(出エジプト記 6:6~7a)

この箇所には、4 回の救いが書かれています。そのために、私たちは 4 杯のワインを飲むのです。そして、念頭においてください。贖い（あがない）は、3 番目です。1 杯目は通常、祝福…失礼、聖別です。そして 2 杯目がある、その他です。ということで、

1 杯目は聖別、2 杯目は裁き、3 杯目は贖い、4 杯目が祝福です。

皆さんが理解しておくべきなのは、2000 年前の「あの過ぎ越し」は、通常とはかなり違った過ぎ越しでした。イエスは、弟子たちを全員、食卓の周りに集めました。あれは、彼らの人生で初めて、家族と離れて過ごした過ぎ越しだったのです。通常、過ぎ越しの時は、妻がいて、子どもたちがいて、皆との交わりがあるのです。ところがこれは、イエスがいて、あとは、弟子たちがいただけでした。そして面白いのは、あの過ぎ越しでは、ほとんど全てが違っていたのです。これら、ワインの杯の飲み方まで違っていました。イエスは、全部は飲まれませんでした。実際、あとで見えていきますが、彼は一つを飛ばし、一つは後に回し、また別のものは将来にとっておかれました。

ということで、次は、過ぎ越しのセダ一の順序です。私たちは食卓を囲んで座り、それから、過ぎ越しのセダ一の一部として、私たちが行う事がいくつかあります。過ぎ越しの順序は、次の通りです。

- ① 聖別。祈ります。
- ② 洗い流す。手を洗います。
- ③ パセリを食べ、
- ④ マツアを分け、
- ⑤ 色々な事を話します。いろいろな質問、いろいろな歌、子どもたちが言ういろいろなこと、
- ⑥ それから清めの部分に入ります。誰を清めるのか？ それはその時にまたお話します。
- ⑦ マツアを取り、苦菜を取り、それらを混ぜます。その時に、皆が食卓について食事をします。

皆さん、言っておきますが、かなりの量ですよ！ マツアのスープだけでもう、死にそうです！ それから、あらゆる種類の料理が並びます。そして、食事が終わる頃には、イスラエル人の半分は、過ぎ越しのセダ一の続きをしません。しかし、その次が、恐らく最も重要なことでしょう。

- ⑧ マツア探しです。家のどこかに、マツアの一片が隠されています。
- ⑨ それから、祝福、賛美。皆で、ささげた賛美を神が受け入れてくださることを信じ、願うのです。

では始めましょう。

通常、1 杯目をいただきます。これはグレープジュースなので、ご心配なく。それを手にとって、祝福します。

これは祝福の杯。皆さん、理解しておいてください。ルカ 22章 17~18 節

- 7 そしてイエスは、杯を取り、感謝をささげて後、言われた。「これを取って、互いに分けて飲みなさい。
8 あなたがたに言いますが、今から、神の国が来るときまでは、わたしはもはや、ぶどうの実で造った物を飲むことはありません。」

(ルカ 22:17~18)

彼は大きなヒントを与えてくださいました。

それから皆で杯を取って、ぶどうの実を祝福し、それを飲みました。マルコ 14章 23 節

- 23 また、杯を取り、感謝をささげて後、彼らに与えられた。彼らはみなその杯から飲んだ。

(マルコ 14:23)

毎回、過越しの食卓には、面白い布があります。



左手前にあるのが、
3 枚のマツアを入れた
マツアカバー



真ん中のマツアを
半分に裂くアミール

それには、三つの部屋があって、それぞれにマツアが入っています。三つです。とても面白いですね。なぜ三つなんだ？ と みんな不思議に思っています。あるラビが言うには、

「ヘブル社会には三つのレベルがあるからだ。
祭司、ラビ、その他の人。」

へえ？ そうですか？ それならどうして、私は真ん中のを取り出すのでしょうか？ それを裂いて、半分を戻し、あとの半分を私たちは「アフィコーメン」と呼びます。これはギリシャ語で「EPIKOMON」と言って、「終わりに来る方」という意味です。

これを家のどこかに隠します。そして見つけた人はご褒美をもらいます。ワーオ。では、どうして真ん中のを裂かなければならないのか？ もしこれが、御父と御子と聖霊でなければ？ しかも、そのうちの一つだけ、その体が私たちのために砕かれた？

そして、彼を信じる者、当時彼を知った人には、明らかにされるのに、彼のご自分の民には隠されている。

ローマ書 11 章には、神が彼らを盲目にされた、とあります。彼らが心を頑なにしたから、彼らに鈍い心と見えない目と、聞こえない耳を与える、と神が言われたのです。イエスは、ご自分の民からは隠されています。彼らには、イエスが見えないのです。ユダヤ人、神の選びの民、神が残しておかれた人たちは、メシアが何であるのか、メシアが誰であるのかをまだ信じず、理解していません。もちろん、少数ですが、神が明らかにされています。しかし、ローマ書 11 章によると、その日が来れば、イスラエルの全家が救われます。アーメン？ その日が来れば、明らかに彼らには、たくさんの褒美が与えられるでしょう。ということで、マツアを分けました。

ローマ書 11 章 11 節

- 11 では、尋ねましょう。彼らがつまずいたのは倒れるためなのでしょうか。絶対にそんなことはありません。

かえって、彼らの違反によって、救いが異邦人に及んだのです。それは、イスラエルにねたみを起こさせるためです。

(ローマ 11:11)

神は何と素晴らしい。たとえ私たちが失敗しても、神はそれを使って、大きな事をされるのです。実際、ユダヤ人が失敗したことによって、皆さんが救われたのですから、ある意味、皆さんは彼らにその恩があるわけです。

『彼らの違反によって、救いが異邦人に及んだのです。それは、イスラエルにねたみを起こさせるためです。』ですから、ここに座っておられる異邦人のお一人お一人が、——皆さんの務めは、イスラエルにねたみを起こすことである、と理解しておかなければなりません。それから、誰かにねたみを起こさせるとは、人を何かおかしな装置に入れて、イエスを受け入れるまで引っ張るとか、そういうことではありません。それは異端尋問。誰かにねたみを起こさせるとは、その人に、あなたの持っているものが欲しいと思わせるのです。

ローマ書 11 章 25 節を読んでみましょう。

25 兄弟たち。私はあなたがたに、ぜひこの奥義を知っていただきたい。それは、あなたがたが自分で自分を賢いと思うことがないようにするためです。その奥義とは、イスラエル人の一部がかたくなになったのは異邦人の完成のなる時までであり、

(ローマ 11:25)

その日はやって来ます。今日、救いの日ですよ。今夜が、救いの日なのです。異邦人への扉が閉じられる日は、訪れます。そうすると、イスラエルの全家が救われるまで、異邦人には、他の選択肢がなくなるのです。お分かりですか？神は、その恵みによって、私たちにこの時間枠を下さったのです。イエスは、裁くためでも、戦うためでもなく、救うために来られました。イエスは、ろばに乗られたのです。これは、王が平和の中で訪れる時の姿です。しかし、彼が馬に乗ってやって来る時が来ます。それは、王が戦いにやって来る姿です。そして彼は来て、イスラエルの敵と戦い、彼らを打ち負かします。もしあなたが、彼と対峙したくなければ、あなたは彼の後ろで、あなたの馬に乗っていなければなりません！ 第二コリント 3 章 15～16 節を読んでみましょう。

15 かえって、今日まで、モーセの書が朗読されるときはいつでも、彼らの心には おおいが掛かっているのです。

16 しかし、人が主に向くなら、そのおおいは取り除かれるのです。

(第二コリント 3:15～16)

それから次は、食卓を囲んで話をします。私たちは会話をし、自分の子どもたちに、あることを尋ねます。

出エジプト記 13 章 8 節、ピリピ 1 章 6 節

8 その日、あなたは息子に説明して、『これは、私がエジプトから出て来たとき、主が私にしてくださったことのためなのだ』と言いなさい。

(出エジプト記 13:8)

6 あなたがたのうちに良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださることを私は堅く信じているのです。

(ピリピ 1:6)

それから、私たちは食卓を囲んで、子どもたちに“有名な質問”をするように言うのです。

「パパ、どうして今日の夜は、いつもの夜とは違うの？」

あの最後の過越しの間、弟子たちはどう思っていたのだろうか？と思わずにはられません。彼らは、過越しには慣れていたので。彼らは、これらの事には慣れていたので。それなのに今、イエスが、全ての決まりを変えていかれるのです。その理由は、皆さんにも分かりますよ。その方法まで分かりますよ。

それから面白い事に、私たちは興味深い歌を歌います。これから、マーティーさんに来て歌って頂きますが、この曲は『ダイエヌ』と呼ばれます。ダイエヌとは、「それだけで十分でした」という意味で、私たちは、いつも次のように言います。

「たとえ主が、ただ、パロを止めて下さっただけであったとしても、それで十分でした。なのに、彼は紅海を分けて下さった。主は他でもなく、紅海を分けて下さったのだから、それで十分でした！いいえ、彼は私たちを砂漠から導き出して下さった。そして主は、私たちを聖地へと導き入れて下さった。そして私たちを回復させてくださり、実にたくさんの事を私たちにしてくださった。」

そして、「*It would have been enough*」(それだけで十分でした)という言葉が、『ダイエヌ』。

そしてこれが、私たちが毎回 過越しの夜に歌う歌です。

【マーティーさん、ピアノで】

子どもたち、パートに分かれて歌いましょう。こんな風に。

子どもたちとパートに分かれて歌います。

それで十分でした。 **ダイエヌ… ダイ ダイエヌ…**

それから皆さんはこんな風に…

ダイエヌ… ダイ ダイエヌ…



[マーティーさんの歌から
楽譜起こしてみました]

これが最初のパートです。いいですか？ 最初に私が歌うのは、

「たとえ神が、ただ私たちを エジプトから導き出して下さった だけでも」

ここで「エジプト」は、ヘブル語では 韻を踏んでいます。彼は、正真正銘のヘブル語を話しますが、私ののは、オハイオ州クリーブランドのヘブル語です。(笑) それから、

「たとえば、彼が、私たちに 安息を与えて下さった だけだったとしても」

それだけで十分でした。 **ダイエヌ**。

「たとえば、彼が、トーラー（モーセ5書）を下さった だけだったとしても」

それだけで十分でした。 **ダイエヌ**。

それから次は、コーラスを歌い、アミールさんが、美しくあがめてくれた イエシュアです。

「たとえば、あなたが、イエシュアを下さった だけだったとしても」

それは十分すぎるほどに 十分です。

彼だけで、十分です。

アーメン！ 主よ、ありがとうございます！ では、歌いましょう。

**※ダイ ダイエヌ ダイ ダイエヌ
ダイ ダイエヌ ダイエヌ ダイエヌ※**

立って歌いましょうか？ その方が楽しい。手をたたいても良いですよ。

アミールさんがヘブル語で「右、左」と言ってくれますから。その調子！（笑）

♪～

たとえば、神が、私たちが エジプトから導き出して下さった だけだったとしても、

それだけで 十分でした

（※～※ 繰り返し）

安息。

たとえば、神が、私たちに安息を与えて下さった だけだったとしても、

それだけで 十分でした

（※～※ 繰り返し）

主よ、その上あなたは、トーラーも与えてくださいました。あなたの聖なる律法です！

たとえば、神が、トーラーを下さった だけだったとしても

それだけで 十分でした

（※～※ 繰り返し）

たとえば、あなたが、イエシュアを与えて下さった だけだったとしても、

それだけで 十分でした

（※～※ 繰り返し）

【アミール】ハレルヤ！ マーティーさん、ありがとうございました。

イエスについて、いろいろな事が言われていますが、彼は、非常に 非オーソドックス(非正統派)でした。そして、ここまでは、二階の間で食卓を囲んでいた弟子たちは、何もおかしいとは思っていませんでした。全てが、予定通りに進んでいました。ところが、ここで彼の 第一の爆弾 が落とされます。

通常は、この時に 2 番目の杯を取るのです。2 杯目の杯を取ってワインを注ぎ、それを持って 2 番目の事を覚える。これは「裁きの杯」エジプトに下された、裁きです。これは『裁き』と呼ばれています。ところが、奇妙な理由で、イエスはその杯を飛ばされました。だから彼らは、お互い顔を見合わせて、

「どういうことだ？」

ペテロはヨハネを見て、ヨハネはマタイを見て、

「どうなっているんだ？」

しかし、イエスは全く違うことを行なわれました。ただ、彼がされた事を言う前に、言っておきますが、イエスが通常とは違う事を行なわれたのは、これが初めてではありません。彼が、ナザレにおられた時の事を覚えていますか？(ルカ 4 章 14~30 参照)そこで彼は、イザヤ書 61 章を読まれましたが、その部分を最後まで読まれませんでした。彼は、裁きについては語られませんでしたね。覚えていらっしゃるでしょうか？彼は、裁きの前で止めました。そして彼は、世を救うために来た事についてのみ、語られました。彼はそれについて、

「良い知らせを伝えるために、神である主の霊が、わたしの上にある。」と言われました。

18 「わたしの上に主の御霊がおられる。主が、貧しい人々に福音を伝えるようにと、わたしに油をそそがれたのだから。主はわたしを遣わされた。捕われ人には赦免を、盲人には目の開かれることを告げるために。しいたげられている人々を自由にし、

19 主の恵みの年を告げ知らせるために。」

(ルカ 4:18~19)

そして彼は、神の裁きの年について、続けるのではなく、その代わりに…

20 イエスは書を巻き、係りの者に渡してすわられた。会堂にいるみな目がイエスに注がれた。

(ルカ 4:20)

彼らは、イエスが全てを読まれなかったことを分かっていたのです。イエスが一部分だけを読んだことを、彼らは分かっていました。覚えていてください。イエスの初臨は、裁くためではなく、世を救うためです。ですから、彼が何か違ったことをされたのは、あれが初めてではなかったのです。そこで、さっきの箇所に戻ると、彼は弟子たちのところに、最も へりくだった方法で来られました。聖書には、ヨハネ 13 章 3~17 節に こう書かれています。ここは通常、全てのユダヤ人は手を洗うところです。ところが、見てください。

3 イエスは、父が万物を自分の手に渡されたことと、ご自分が神から出て神に行くことを知られ、

4 夕食の席から立ち上がって、上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って腰にまとわれた。

5 それから、たらいに水を入れ、



ブラウン画
「ペテロの足を洗うキリスト」

通常は、手を洗う器です。それから、イエスがされた事を見てください！

弟子たちの足を洗って、腰にまもっておられる手ぬぐいで、ふき始められた。
6 こうして、イエスはシモン・ペテロのところに来られた。ペテロはイエスに言った。「主よ。あなたが、私の足を洗ってくださるのですか。」

(ヨハネ 13:3~6)

まず第一に驚いたのは、それが手ではなく、足だったことです。それから驚いたのは、イエスがペテロの足を洗う、という事実。イエスが足を洗っている、という事実です！ ですから、ペテロの思考の中では、その全ての全てが間違っていたのです。私はペテロが大好きです。彼はいつも、思ったことをすぐに口に出しましたから。そしてほとんどの場合、彼が間違っていました。ともかく、面白いのが、

7 イエスは答えて言われた。「わたしがしていることは、今はあなたにはわからないが、あとでわかるようになります。」

(ヨハネ 13:7)

時に、私たちはただ神を信頼する、ということが必要です。イエスがされている事が、私たちには分からなかったとしても、いずれ分かります。

8 ペテロはイエスに言った。「決して私の足をお洗いにならないでください。」

(ヨハネ 13:8a)

私は、彼が大好きですよ。何度も何度もイエスを叱った弟子は、彼だけです。ピリポ・カイザリアでの出来事を覚えていますか？ (マタイ 16:22) イエスが、彼の死について語られた時、ペテロはイエスを引き寄せて言いましたね？

「主よ。そんなことが、あなたに起こるはずがありません！」

「そんなこと、言っちゃいけません！」と。

彼だけです。清くない動物の入った白い布が上から降りて来た時、あんなことを言うのはペテロだけです。

14 …「主よ。それはできません！…」

(使徒 10:14a)

ということで、

8 イエスは答えられた。「もしわたしが洗わなければ、あなたはわたしと何の関係もありません。」

(ヨハネ 13:8b)

あらら？…あらあら。あなたは何か勘違いをしているようだ。

9 シモン・ペテロは言った。「主よ。私の足だけでなく、手も頭も洗ってください。」

(ヨハネ 13:9)

彼は、悟りました。これは、足を洗う・洗わないの話じゃない、これは、仕える者の心得だ、と。ペテロは、それを悟りました。そして彼は、一旦悟ったら、見事に準備が出来ました。

10 イエスは彼に言われた。「水浴した者は、足以外は洗う必要がありません。全身きよいのです。あなたがたはきよいのですが、みながそうではありません。」

(ヨハネ 13:10)

あらら… 食卓を囲んでいる者の中に、本当の信者でないものがある？ キリストに従っていない者が？
それから、彼は言われました。

11 イエスはご自分を裏切る者を知っておられた。それで、「みながきよいのではない」と言われたのである。

(ヨハネ 13:11)

12 イエスは、彼らの足を洗い終わり、上着を着けて、再び席に着いて、彼らに言われた。

(イエスが座られる時は、いつも教える時です。)

「わたしがあなたがたに何をしたか、わかりますか。」

13 あなたがたはわたしを先生とも主とも呼んでいます。あなたがたがそう言うのはよい。わたしはそのような者だからです。

14 それで、主であり師であるこのわたしが、あなたがたの足を洗ったのですから、あなたがたもまた互いに足を洗うべきです。

15 わたしが、あなたがたにしたとおりに、あなたがたもするように、わたしはあなたがたに模範を示したのです。

(ヨハネ 13:11~15)

神が、7 日目に休まれたのは、言っておきますが、神は疲れておられたからではありません。そうではなく、模範を示されたのです。イエスは、罪のための洗礼を、わざわざ受ける必要はありませんでした。しかし彼は、模範を示されました。そして、ここでもまた、模範を示されました。素晴らしいと思いませんか？ 私たちの救い主は、私たちの弱さを分かっておられ、時々、私たちが理解出来ないことも分かっておられる。

「だから、座って、わたしが模範を示そう。」と。

16 まことに、まことに、あなたがたに告げます。しもべはその主人にまさらず、遣わされた者は遣わした者にまさるものではありません。

17 あなたがたがこれらのことを知っているのなら、それを行うときに、あなたがたは祝福されるのです。

(知っているだけではなく、行うのです。)

(ヨハネ 13:16~17)

クリスチャンの多くが、聖書を知っていながら、知っていることとやっていることが違うのです。

言っておきますが、

「知っているなら、それを行う時に、祝福される」

とイエスは言っておられます。

それから彼は、マツツアを取られます。ヨハネ 6 章 35 節で、イエスはこう言われました。

35 …「わたしがいのちのパンです。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者はどんなときにも、決して渴くことはありません。」

(ヨハネ 6:35)

しかしユダヤ人たちは、彼の事で苦情を言いました。彼が

「わたしは天から来たパンである」

と言ったからです。彼が何のことをおっしゃっているのか、分かりますか？

彼は、太陽が出来る前からおられました

彼は、天から来られたのです。

彼は、天の御座を離れて、地に来られたのです。

それから、出エジプト記 12 章 8 節を見てみましょう。

8 その夜、その肉を食べる。すなわち、それを火に焼いて、種を入れないパンと苦菜を添えて食べなければならぬ。

(出エジプト記 12:8)

通常、私たちが行うのは、種なしのパンをちぎり、西洋ワサビをつけて、それからもう一つ取って、それに甘いハロセットをつけ、それを混ぜ合わせて、それから食べます。肉がありませんから、これはしませんが、他のものは全て行います。苦菜、それとマツツア。面白い事に、イスラエルの歴代のラビたちは、パンにハロセットや西洋ワサビを浸して、誰かにあげると、「愛と、尊敬と、警告のしるしだ」と言いました。だから今、私が皆さんにこれを差し上げると、私は皆さんを愛しているけれど、皆さんに警告していることになるのです。あらら！ヨハネ 13 章 21～27 節を見てみましょう。

21 イエスは、これらのことを話されたとき、霊の激動を感じ、あかしして言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。あなたがたのうちのひとりが、わたしを裏切ります。」

22 弟子たちは、だれのことを言われたのか、わからずに当惑して、互いに顔を見合わせていた。

23 弟子のひとりで、イエスが愛しておられた者が（誰の事だろう？）、イエスの右側で席に着いていた。

24 そこで、シモン・ペテロが彼に合図をして言った。

「だれのことを言っておられるのか、知らせなさい。」

(ヨハネ 13:21～24)

想像出来ますか？ ヨハネがそこにおいて、食卓の端っこにいたペテロが

「おい、ヨハネ！ 誰の事か、イエス様に聞けよ！」

彼は、その空気に耐えられなかったのです。

想像出来ますか？

もし私が、「この中の一人は、テロリストだ。」とか言ったら？

「彼は、体に爆弾を巻いている。」

皆さん、警戒しませんか？ 「どいつだ!?!」と。

考えてみてください。誰かが、イエスを死なせようとしているのです。

だから、全員が警戒したのです。そして、イエスが言われたことを見てください。



レオナルド・ダヴィンチ画
「最後の晩餐」

25 その弟子は、イエスの右側で席に着いたまま、イエスに言った。

「主よ。それはだれですか。」

26 イエスは答えられた。

「それはわたしがパン切れを浸して与える者です。」

それからイエスは、パン切れを浸し、取って、イスカリオテ・シモンの子 ユダにお与えになった。

(ヨハネ 13:25~26)

何のしるしでしたか？

『愛』

なぜなら、イエスは罪びとを愛しておられます。彼は、ユダのことを決して憎んでおられませんでした。イエスは、ユダの中に入り込み、彼を裏切り者にした者を憎まれたのです。

26 イエスは答えられた。

「それはわたしがパン切れを浸して与える者です。」

それからイエスは、パン切れを浸し、取って、イスカリオテ・シモンの子 ユダにお与えになった。

27 彼がパン切れを受けると、そのとき、サタンが彼に入った。そこで、イエスは…

(ヨハネ 13:26~27a)

覚えていますか？ イエスは、ユダを愛され、彼に警告されました。そしてその時、サタンが彼に入ったのです。

そして、どうなったか。

27 … そこで、イエスは彼に言われた。

ツアーのお客さんが、トイレに行きたいと言ったとき、私はいつもこう言います。

「あなたがしようとしていることを、今すぐしなさい。」

(ヨハネ 13:27b)

(笑) これは皆が食卓に着き、食事をいただいて、食事の後は先ほど言った楽しい時間で、子どもたちが走り回って、隠されているものを見つけます。今日は皆さんに、特別サプライズを用意しています。ここにおられる方

の中で、どなたかの椅子の下に、隠されたものがテープで貼ってあります。それを持って、私の所に来てくだされば、その方にプレゼントを差し上げます。探してください！ ありました？ こちらに来てください！

彼女がアフィコーメンを見つけました！ 思った通りだ。ハイ、どうぞ。

「ありがとう」（会場拍手）

これは、イスラエルの子どもたちが与えられる褒美、国家の救いの象徴です。今は、彼らの目から隠されている方を、彼らが見たときにです。

次に、イエスは2番目の杯を飛ばされましたが、3番目は取られました。贖いの杯です。イエスは言われました。ヨハネ 15 章 1 節。

1 わたしはまことのぶどうの木であり、わたしの父は農夫です。

(ヨハネ 15:1)

それから、ルカの 22 章 14~20 節をご覧ください。

14 さて時間になって、イエスは食卓に着かれ、使徒たちもイエスといっしょに席に着いた。

15 イエスは言われた。「わたしは、苦しみを受ける前に、あなたがたといっしょに、この過越の食事をすることをどんなに望んでいたことか。

16 あなたがたに言いますが、過越が神の国において成就するまでは、わたしはもはや二度と過越の食事をすることはありません。」

17 そしてイエスは、杯を取り、感謝をささげて後、言われた。「これを取って、互いに分けて飲みなさい。

18 あなたがたに言いますが、今から、神の国が来る時までは、わたしはもはや、ぶどうの実で造った物を飲むことはありません。」

19 それから、パンを取り、感謝をささげてから、裂いて、弟子たちに与えて言われた。「これは、あなたがたのために与える、わたしのからだです。わたしを覚えてこれを行いなさい。」

20 食事の後、杯も同じようにして言われた。「この杯は、あなたがたのために流されるわたしの血による新しい契約です。

(ルカ 22:14~20)

食事の後の杯は、3番目です。これは、何の杯でしたか？ —— 贖いです。ワーオ！ イエスは、『裁き』の杯を飛ばして、そして 贖いの杯を取るように、皆に言われたのです。

23 私は主から受けたことを、あなたがたに伝えたのです。すなわち、主イエスは、渡される夜、パンを取り、

24 感謝をささげて後、それを裂き、こう言われました。「これはあなたがたのための、わたしのからだです。わたしを覚えて、これを行いなさい。」

25 “夕食の後”、杯をも同じようにして言われました。(3番目の杯です。)

「この杯は、わたしの血による新しい契約です。これを飲むたびに、わたしを覚えて、これを行いなさい。」

26 ですから、あなたがたは、このパンを食べ、この杯を飲むたびに、主が来られるまで、主の死を告げ知らせるのです。

(第一コリント 11:23~26)

だから皆さんは、ただ聖餐式を行なっているのではなく、実際には、あの最後の過越しを、ほんの少し垣間見ているのです。

美しいと思いませんか？

イエスが、飛ばされたのは？ —— 裁きの杯。それは、彼が、一つの事をご存知だったからです。

「わたしが、その杯を飲む。」

「わたし一人で。あなたは、それを飲まなくてもいい。」

「あなたは、救いの杯を高く掲げ、楽しみなさい。」

あと数時間すれば、わたしはたった一人で園へ行く。そこでわたしは祈り、神に願おう。

42 「父よ。みこころならば、この杯をわたしから取りのけてください。…

(ルカ 22:42)

それが不可能であることは、ご存知でした。

ご自分がこのために来られたことを、ご存知でした。

彼には、そこから逃れる選択肢もありました。

彼には、逃げる選択肢もありました。

しかし彼は、そこに留まることを選ばれました。

そして、裁きの杯を、たった一人で、その身に受けてくださったのです。

興味深いのは、彼がその恐ろしい瞬間を受けられた時、世の罪、全世界の圧迫、邪悪が彼の肩にのしかかりました。そして苦しみのあまり、彼の汗が、血のしずくのように地に落ちたのです。イエスが初めて血を流されたのは、十字架の上ではありません。それは、ゲツセマネの園でした。私たちが受けるべきであった杯を、お一人で受けてくださった時。そして、その恐ろしい瞬間から、私たちが救ってくださったのです。

それがもちろん、後の、私たち全員にとっての聖餐式となりました。3番目の贖いの杯を取って、覚えるのです。砕かれたからだ、流された血によって、私たちは贖われたということ。主にある、贖い。

それから、エリヤに関することです。皆さん、どこでも過越しには空席があるのをご存知ですか？それと杯が、エリヤのためだけに用意されているのです。ユダヤ人たちは、本気でエリヤが戻って来るのを待っているのです。何故でしょう？ マラキ書 4章 5~6 節

- 5 見よ。わたしは、主の大いなる恐ろしい日が来る前に、預言者エリヤをあなたがたに遣わす。
- 6 彼は、父の心を子に向けさせ、子の心をその父に向けさせる。それは、わたしが来て、のろいでこの地を滅ぼさないためだ。」

(マラキ 4:5~6)

それから、ルカ 1 章 17 節

- 17 彼こそ、エリヤの霊と力で主の前ぶれをし、父たちの心を子どもたちに向けさせ、逆らう者を義人の心に立ち戻らせ、こうして、整えられた民を主のために用意するのです。

(ルカ 1:17)

もちろん、これはバプテスマのヨハネのことです。マタイ 17 章 10~13 節。

- 10 そこで、弟子たちは、イエスに尋ねて言った。「すると、律法学者たちが、まずエリヤが来るはずだと言っているのは、どうしてでしょうか。」
- 11 イエスは答えて言われた。「エリヤが来て、すべてのことを立て直すのです。」
- 12 しかし、わたしは言います。エリヤはもうすでに来たのです。ところが彼らはエリヤを認めようとせず、彼に対して好き勝手なことをしたのです。人の子もまた、彼らから同じように苦しめられようとしています。」
- 13 そのとき、弟子たちは、イエスがバプテスマのヨハネのことを言われたのだと気づいた。

(マタイ 17:10~13)

皆さん、バプテスマのヨハネは、エリヤの霊で来て、そしてヘロデによって、首を斬られました。イエスは、救うために来られるはずの方でした。しかし彼は、十字架にかけられました。神の目には、何も隠されていません。ただ、イエスは、実に明確にしようとされました。

エリヤが来ることを、期待して待つな。

エリヤは、わたしが来る前に、すでに来たのだ。

実際、彼は来ました。ですから、もし、エリヤが戻って来るのを待つ必要がないなら、主が戻って来られるのを待たなければなりません。面白い事に、ユダヤ人の一人一人が、毎朝、こんな風に言って祈るのです。

「あなたが、大きなあわれみをもって、シオンの山に戻って来られるのを、私たちの目が見ますように。」

彼らは、主の戻りを祈っているのです。彼が来たことも信じていないのに！ 私たちは、彼が戻られたことを宣べ伝えます。

彼に戻って来てくださるよう、お願いします。

そして、彼は戻って来ます。アーメン？

アーメン！ イザヤ 66 章 12～13 章をご覧ください。

12 主はこう仰せられる。「見よ。わたしは川のように繁栄を彼女に与え、あふれる流れのように国々の富を与える。あなたがたは乳を飲み、わきに抱かれ、ひざの上でかわいがられる。

13 母に慰められる者のように、わたしはあなたがたを慰め、エルサレムであなたがたは慰められる。

(イザヤ書 66:12～13)

これは、エルサレムが中心です。私たちは、あの 4 番目の杯を祝福し、エリヤの席を見る時、エルサレムを思うのです。エルサレムは、ユダヤ人にとっては、とても大切なのです。「見よ。わたしは川のように繁栄を彼女に与え、あふれる流れのように国々の富を与える。あなたがたは乳を飲み、わきに抱かれ、ひざの上でかわいがられる。母に慰められる者のように、わたしはあなたがたを慰め、エルサレムであなたがたは慰められる。」

平和の君が栄光を帯びて、エルサレムに戻って来られるのを、あなたがたが見た時に。

そして、過ぎ越しのセダールの終わりに、私たちは賛美を歌います。マーティーさんが出て来て、最後を歌で締めくくる前に、皆さんに言っておきたいのは、イエスは、その先に何が待ち構えているかを知った上で、この部分を飛ばされませんでした。聖書には、マタイ 26 章にこうあります。

30 そして、賛美の歌を歌ってから、みなオリーブ山へ出かけて行った。

(マタイ 26:30)

皆さんも、様々な困難に直面しておられるでしょう。しかし、皆さんの誰一人として、十字架が待ち受けてはいません。だから、神を賛美することを、絶対に止めないでください。その日が良い日であろうと、悪い日であろうと、一日の終わりには、必ず全能の神に賛美をささげて終わることを忘れないでください。アーメン！

このように、過ぎ越しのセダールは、イエスと、彼による救い贖いの力の美しい絵でした。ユダヤ人だけのためではなく、全世界のためです。

16 私は福音を恥とは思いません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシャ人にも、信じるすべての人にとって、救いを得させる神の力です。

(ローマ 1:16)

God bless you all!

2018 年 3 月 30 日 初回公開

【写真出典一覧】

・過ぎ越しのセダールの実演をするアミール：動画より

- ・ハガダーのヘブル語表記 : Wikipedia 「ハッガーダー」
- ・ハガダーの説明をするアミール : 動画より
- ・過ぎ越しの食事のプレート : じゃあがる通信過ぎ越しの祭り 2011. 4. 19
- ・マッツァ : 世界の料理レシピ 「マッツァ」
- ・ワイン : 週刊イエス 「【疑問】クリスチャンはお酒・アルコールを飲んではいけないのか?! 〈前編〉」
2018. 4. 6
- ・左手前にあるのが、3枚のマッツァを入れたマッツァカバー : シオンとの架け橋 「過ぎ越しの祭り 『ペサハ』」
- ・真ん中のマッツァを半分に裂くアミール : 動画より
- ・マーティーさんの歌から楽譜起こしてみました。 : MIHO
- ・ブラウン画 「ペテロの足を洗うキリスト」 : フォード・マドックス・ブラウン画 1851 年英
テイトギャラリー蔵
- ・レオナルド・ダヴィンチ画 「最後の晚餐」 : レオナルド・ダヴィンチ画 1495~1498 年壁画テンペラサンタ・
マリア・デッレ・グラツィエ修道院蔵伊ミラノ!



☞ スマートフォンなどのカメラで読み込むと、このメッセージを YouTube で見られます。
《リンク先 : <https://youtu.be/aTkoUiNYauQ> 》



メッセージ by Amir Tsarfati / Behold Israel 2021.03.16
<https://beholdisrael.org>

ビホールドイスラエル 日本語 YouTube チャンネル ▶
<https://www.youtube.com/channel/UCLcuvC6Mr63AqwiiXDkwRVQ>

